新潟西部地域
「新之助」生育情報　No.5

令 和 ６ 年 ７ 月 12 日
巻農業普及指導センター

葉色濃い！
幼穂長を確認し、穂肥は適期に適量を施用

【7月10日の生育データ(指標値比較)】

草丈「長い」、茎数「やや少ない」、葉数「並」、葉色「濃い」

区分	調査地点	移植日	草丈(cm)		茎数(本／㎡)		葉数(L)		葉色(SPAD)	
			本年値	指標比 %	本年値	指標比 %	本年値	指標差L	本年値	指標差
分施	巻(普及)	5月14日	62	119	743	128	11.2	−0.3	37.2	2.7
全量基肥	巻	5月18日	64	123	460	79	11.6	0.1	34.8	0.3
	岩室	5月11日	57	110	518	89	11.5	0.0	35.9	1.4
	潟東	5月10日	64	123	433	75	12.1	0.6	41.3	6.8
	中之口	5月12日	61	117	450	78	11.2	−0.3	40.7	6.2
	黒埼	5月10日	59	113	645	111	11.1	−0.4	38.3	3.8
	にいがた西	5月11日	68	131	528	91	10.9	−0.6	35.1	0.6
全体平均		5月12日	62	120	540	93	11.4	−0.1	37.6	3.1
指標値		5月15日	52		580		11.5		34.5	
近年値		5月13日	56		530		11.0		36.0	

※調査地点：JA新潟かがやき「越後中央」新之助研究会、JA新潟かがやき「みらい」新之助栽培研究会、普及センター気象感応ほ調査データ
※近年値はH29～R5までの平均値

【今後の管理ポイント】

○ 現在、幼穂形成期は７月18日頃の見込みで、分施栽培の１回目の穂肥施用時期は７月20～23日頃と予想されます。ほ場毎に幼穂長を確認し、適期に適量を施用しましょう。

○ 水管理は、出穂期1か月前となったので、浅水の間断かん水から徐々に飽水管理に移行しましょう。

○いもち病感染リスクの高い気象条件となっています。水面施用粒剤での穂いもち防除は出穂20日前頃に実施しましょう。葉いもちが発生したほ場では直ちに粉剤か液剤で防除しましょう。

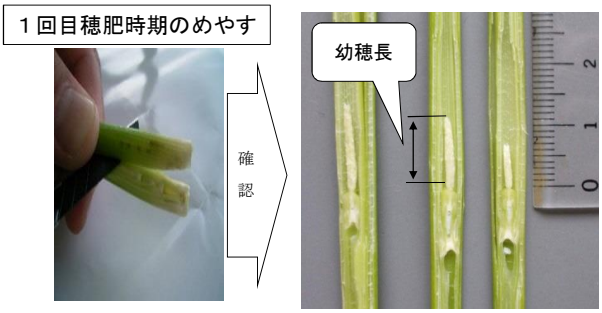
○紋枯病が前年多発したほ場では適期に防除を行しましょう。

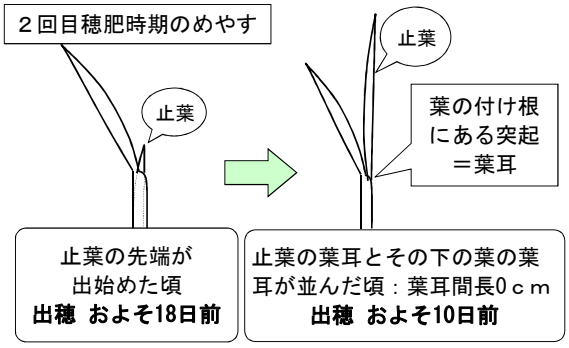
【収穫前までの栽培管理】

1　穂肥時期のめやす

○１回目穂肥時期は出穂期21～18日前で、幼穂長が5～10㎜になった時期です。

○２回目穂肥時期は出穂期12～10日前で、止葉の葉耳（葉の付け根にある突起）とその下の葉の葉耳が並んだ頃（葉耳間長0cm）です。





2 穂肥量のめやす

（1）分施栽培１回目穂肥

下図を参考に、幼穂形成期の草丈と葉色（SPAD値）から施用量を判断してください。

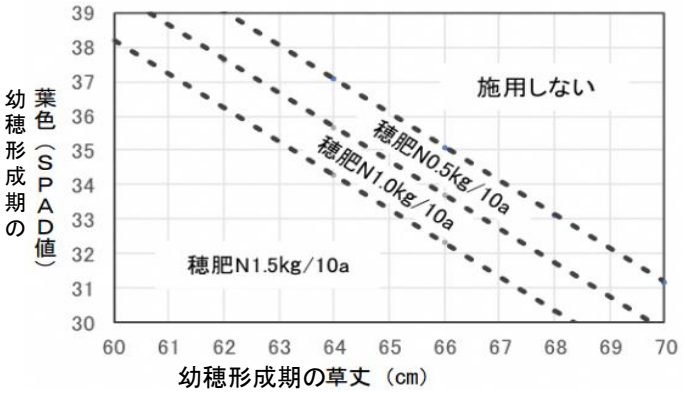


図１　適正な㎡籾数に誘導する１回目穂肥施用量の判断めやす
（作研センター：H29～R元）
注：めやすは幼穂形成期の茎数が300～750本/㎡の範囲で適用する。

（2）分施栽培２回目穂肥

下表を参考に、葉色（SPAD値）から施用量を判断してください。

表1　適正な出穂期葉色に誘導する2回目穂肥施用量のめやす（作研センター:H29～R元）

穂肥2回目施用時の葉色（SPAD値）	32.0未満	32.0～34.5未満	34.5～37.0未満	37.0以上
施肥窒素量(kg/10a)	1.5	1.0	0.5	施用しない

（3）出穂期10日前以降の追加穂肥の考え方（分施・全量基肥栽培共通）

○ 出穂期10日前以降の穂肥は、玄米タンパク質含有率を高め、食味の低下につながるので、**原則、施用しません**。

○ ただし、**出穂期３日前**（かつ、分施体系では２回目の穂肥から１週間以降）の、**第２葉（止葉の次の葉）のSPAD値が34未満**で、**登熟期間の高温が予想される場合**は、追肥穂肥も検討しましょう。
施用量は最大で**窒素成分１kg/10a**です。

3 水管理

○ 稲体は、幼穂形成期から出穂・開花期にかけて最も水を必要としますので、この期間に水が不足することのないよう、**飽水管理を徹底**しましょう。

○ **異常高温やフェーンが予想される場合**は、急激な蒸散による出穂前の稲体活力の低下を防ぐため、**速やかに湛水**しましょう。ただし、長期間の湛水は避け、可能な限り**ほ場の水温上昇を抑えるためのこまめな水管理(水更新)**を行いましょう。

○ 落水時期が早いと、品質・食味の低下につながります。このため、**通水最終日には十分にかん水**し、**出穂後25日頃までは飽水状態の維持**に努めましょう。
また、登熟後半の土壌水分確保のため、気象状況をふまえ、**できる限り暗渠栓を開ける時期を遅らせましょう**。

写真１　飽水管理で水田の「足跡に水が残っている程度」

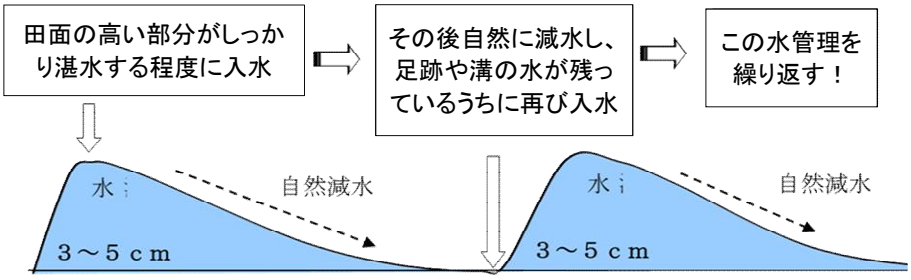


図２　飽水管理のイメージ

「水稲栽培技術対策資料No.5」 、
「新潟市西蒲区・西区版　水稲管理技術情報(YouTube)」
で 参考情報提供中！

←YouTubeのQRコード

適期収穫で１等米確保！

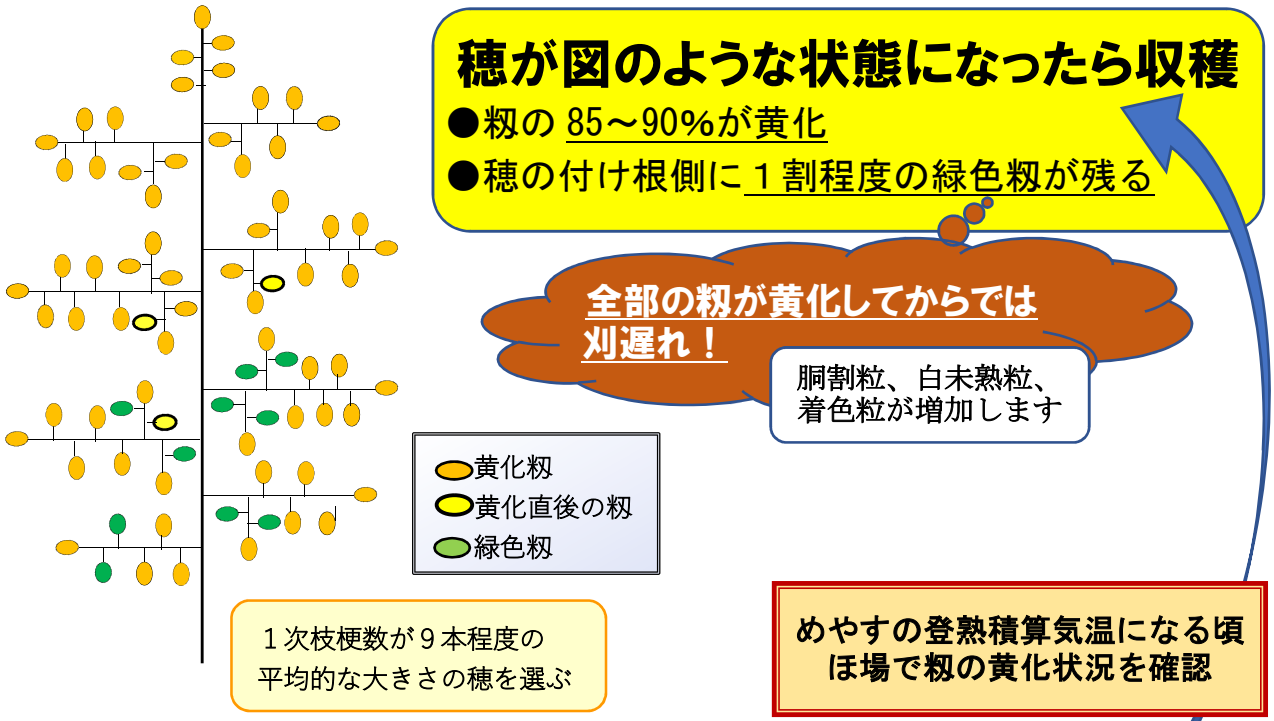


図１　収穫適期の黄化籾率 85～90%の穂
（富山県水稲栽培指針から引用）

収穫適期のめやすとなる登熟積算気温

※登熟積算気温：
出穂期以降の日ごとの平均気温を足した値

品　種	登熟期間が平温年	登熟期間が高温年
コシヒカリ・こがねもち	1,000℃	950℃
こしいぶき・わたぼうし	975℃	925℃
ゆきん子舞	950～1,000℃	900～950℃
新之助	1,050～1,100℃	1,000～1,050℃